

# 災害後の復旧・復興へ

## — 学校・地域と大学が ともにできること —

参加無料

パソコン要約筆記あり

和歌山大学では、地震や風水害のリスクが高く、かつ少子高齢化が進む和歌山県にあって、これまで、防災・減災意識の高い地域住民の創出や、若年層への防災教育の支援に数多く取り組んできました。一方で、災害後を考えたとき、地域のシンクタンクとして、また人材資源としての大学への期待は多岐にわたると考えられます。そこで今回のシンポジウムでは、災害後、市民生活の支援に必要な情報収集・発信や、学校教育の早期の正常化などに対して、大学ができる地域社会貢献や支援、そのための人材の養成について、地域のみならずととも考えます。



和歌山大学災害科学教育研究センターホームページ  
<http://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

日時／ **平成30年**  
**10月13日(土)**

場所／ **和歌山県立情報交流センター Big-U**

田辺市新庄町 3353-9

研修室 1 (シンポジウム) 13:00~16:00 (受付 12時~)

研修室 2 (展示コーナー) 12:00~16:30



JR白浜駅からタクシーにて約10分  
南紀白浜空港からタクシーにて約20分  
南紀田辺IC下車国道42号線を白浜方面へ

# シンポジウムプログラム

研修室1 (13:00 ~ 16:00)

講演1 (13:20 ~ 14:00)

## 「被災地における理科教育支援と災害時にも途切れない教育システムづくり」

貞光 千春氏 お茶の水女子大学 特任准教授

講演2 (14:00 ~ 14:40)

## 「大規模災害後の情報収集としてドローン空撮とクライシスマッピング」

古橋 大地氏 青山学院大学 教授・和歌山大学教育研究アドバイザー

パネルディスカッション (15:00 ~ 15:50)

## 「学校・地域と大学がともにできること」

パネリスト

千葉 和義氏 お茶の水女子大学 副学長・サイエンス&エデュケーションセンター長

古橋 大地氏 青山学院大学 教授・和歌山大学教育研究アドバイザー

辻本 和孝氏 和歌山県教育庁 学校教育局 義務教育課 指導主事

上仲 輝幸氏 (株)紀伊民報 マルチメディア事業部 係長

コーディネーター

此松 昌彦 和歌山大学災害科学教育研究センター長

# 防災研究・啓発展示コーナー

研修室2 (12:00 ~ 16:30)

## お茶の水女子大学, 和歌山大学による研究成果

被災地における教育支援 デモンストレーション

避難時間可視化システム

土砂災害発生メカニズム など(予定)



## 参加申込

締め切り  
10月5日(金)  
定員100人

メールから [saigai@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:saigai@center.wakayama-u.ac.jp)

FAXから 073-457-7593

代表者所属

代表者名

申し込み人数 人

TEL

※いただいた申し込み情報は本シンポジウム開催の目的以外では使用いたしません。

※手話通訳など何らかの支援・情報保障が必要な方は、9月27日(木)までに下記にご連絡ください。

●問い合わせ先 和歌山大学災害科学教育研究センター TEL 073-457-7558 FAX 073-457-7593